

国際シンポジウム

多言語環境児童の学習言語の発達と障害

—イマージョン教育から見えてくること—

日時：2011年11月27日（日）午後1時～午後6時

場所：共立女子大学3号館508教室（文末の地図参照）

東京都千代田区神田神保町3-27 3号館

グローバル化の進行に伴い、我が国でも多言語環境で育つ児童が増えています。本シンポジウムでは、多言語環境で育つ児童の学習言語の発達と障害について、イマージョン教育の第一線の研究者、教育者による講演を企画しています。また、多言語環境で育つ発達障害児も増加傾向にあり、支援や研究の必要性が高まっています。これらの児童の言語発達と障害についても意見交換ができる機会にしたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

プログラム

- 13:00-13:10 挨拶 大井学(金沢大学教授)
- 13:10-14:40 講演1 中島和子 氏 (トロント大学名誉教授)
- 14:40-15:40 講演2 古石篤子 氏 (慶応大学教授)
- 15:40-16:00 休憩
- 16:00-17:30 講演3 Friebus-Flaman, Marion 氏
(Principal, Dooley Elementary School)
- 17:30-17:50 質疑応答
- 17:50-18:00 挨拶 大井学

申込方法

お申し込みは、E-mail でお願ひします。①お名前、②ご所属、③「多言語環境児童の学習言語の発達と障害参加希望」とご記入の上、

multilingualdevelopment@gmail.com

までお申し込みください。申込受領後、確認メールをお送りします。

申込締め切り：11月17日（木）
先着120名

主催：金沢大学子どもの心の発達センター
共催：RISTEXプロジェクト「自閉症にやさしい社会：共生と治療の調和の模索」、
多言語発達支援研究会、東京学芸大学
共立女子大学発達相談・支援センター
後援：日本コミュニケーション障害学会
企画：権藤桂子（共立女子大学）
松井智子（東京学芸大学）
大井学（金沢大学）

シンポジウム講演要旨

講演1 「マイノリティー言語児童生徒とイマージョン教育」

中島和子 氏

トロント大学名誉教授。カナダ日本語教育振興会名誉会長、母語・継承語・バイリンガル教育研究会会長

1960年代にカナダで始まったイマージョン教育は、教科学習の50%以上を第2/3言語で行う学校環境である。加算的バイリンガル育成の有効な手段として40年以上の実績があり、現在世界各地で使われている言語教育の1形態である。国内の外国人児童生徒のようなマイノリティー児童生徒にとってもイマージョン教育が学習言語を伸ばす学習環境となるのであろうか。学校で教科学習をL2（日本語）で行うため、日本語に‘immerse’したイマージョン的状况ではあるが、L1（母語）を使用した教科学習がないため、母語が後退、喪失の危険に晒され、母語の学習言語が育たない。このために日本語の学習言語の獲得も遅れがちで、結果として減算的バイリンガル（母語は捨てて現地語のモノリンガルになる）ケースが多い。マイノリティー児童生徒の母語の学習言語を育てるあり方として、カナダ（中部3州）の継承語イマージョン、米国の双方向イマージョン（Two-way immersion）、海外児童生徒教育のための週末イマージョン（補習授業校）の例を取り上げる。

講演2 「ろう児のバイリンガル教育—カナダ Drury 校の試みを通して」

古石篤子 氏 慶応大学教授

ろう児が知覚上の不全感なく獲得し使用できる言語は手話であり、日本ではそれは日本手話、英語圏カナダではASL（アメリカ手話）である。これらの手話は言語学的に見て音声日本語・音声英語とは異なる独自の文法をもった自然言語のひとつとされる。したがって、日本手話やASLを使用するろう者はその居住地において言語的少数者である。このような子どもたちの教育環境の構築をカナダ・オンタリオ州立 Drury 校の実践を通して考えたい。わが国のろう教育では未だ聴覚口話法が主流であり、手話の言語環境は不十分であるが、Drury 校ではバイリンガル教育を行っている。これは第一言語としてのASLと第二言語としての書記英語の2言語の習得を目指すものである。しかしながら、視覚と聴覚という異なるモードの2言語獲得は容易なことではない。発表では Drury 校での実践を、ビデオを見ながらご紹介したい。特に幼稚部や小学部での発達に応じた2言語教育、ASL-phabet (grapheme) を通じての言語意識の育成、MVL (Manipulative Visual Language) 使用の英語教育などについて触れようと思う。

講演3 “Educating Bilingual Students with Special Needs in a Japanese-English Dual Language Program”

Marion Friebus-Flaman, Ph.D. Thomas Dooley Elementary School

Dooley Elementary School is a K-6 public school that houses a Japanese-English two-way immersion program. This program is designed to develop students who are bilingual, bi-literate and bicultural, with approximately half of the students entering Kindergarten as native speakers of English and half of the students entering Kindergarten as native speakers of Japanese. From Kindergarten through 6th grade, half of the curriculum is delivered in Japanese and half in English. Over 200 students participate in this program. Of these students, there are a handful of students who have been diagnosed with cognitive disabilities or ASD/PDD. The presenter will give an overview of the two-way immersion program; then focus specifically on the instructional strategies and supports employed in educating Japanese-English bilingual students who have these special needs. The roles and responsibilities of classroom teachers, instructional assistants, special education resource teachers, and other related services staff will be presented as well as parents' roles and communication between home and school. Video clips of instruction and samples of student work will also be presented.

共立女子大学へのアクセス(東京都千代田区神田神保町 3-27(3号館))

- ・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線「神保町」駅下車 A1出口から徒歩 5 分
- ・東京メトロ東西線・半蔵門線・都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車 6 番出口から徒歩 5 分

